

【チャールズ・ディケンズ】



1812年2月7日生まれ、1870年6月9日死没
19世紀を代表するイギリスの小説家

チャールズ・ディケンズは、1812年にイギリス南部で、中流階級の家にも生まれました。子ども時代はロンドンやケントで暮らし、学校に通っていましたが、文章が大好きで、小説をたくさん読んだそうです。しかし、彼が12歳のときに父親が破産してしまい、工場に働きにでることになってしまいました。少年時代からとても苦勞をしたのです。

10代後半からは法律事務所で事務員として働きました。その仕事の合間に速記術を勉強し、これを習得すると事務所を辞めて、法廷の速記記者になりました。ディケンズは芝居が大好きだったので、このころ俳優になろうとしたこともあったそうです。20歳のころに新聞社に投稿した記事が評価され、新聞記者になりました。そして、新聞記者として働きながら、小説を書くようになりました。そうやって書き上げた『ボズのスケッチ集』という作品集を発表し、小説家としてデビューしました。

ディケンズは自分の体験や、新聞記者としての活動によって知った社会の現状や問題を題材として、人間と社会の現実を見つめ、そして、人間と社会の理想を思い描きながら小説を書きました。

1992年から2003年までイギリスの紙幣にはディケンズの肖像が描かれています。それくらいイギリスでは人気のある小説家です。

《代表的な作品》

- 『オリバー・ツイスト』(1837年-1839年)
- 『クリスマス・キャロル』(1843年)
- 『ディヴィッド・コパフィールド』(1849年-1850年)
- 『二都物語』(1859年)
- 『大いなる遺産』(1860年-1861年)

読んでみよう!

クリスマス・キャロル



『クリスマス・キャロル』岩波少年文庫
(小学5・6年から)

参考文献

世界の文化史のミュージアム https://history-univ.sakura.ne.jp/literature/modern/europe/charles_dickens.html

ディケンズ・フェロウシップ日本支部 <http://www.dickens.jp/index.html>